

增補
字源

簡野



角川書店

字源編纂の緣起

予幼時、唐詩選・三體詩を愛讀し、且つ好みて五七言絶句を作り、推敲苦吟、夜夜夜分に達せり。先君子之を戒めて曰く、凡そ物本末あり、事先後あり。抑も四子六經は義理の府にして、文章の宗なり。學者先づ沈潜講究せざるべからず。汝この根本の經學を專攻せず、徒に枝葉の詩賦に耽る、乃ち不可なることなからんやと。且つ曰く、經學を講究せんには、先づ字義訓詁に通ぜざるべからず。字義訓詁に通ぜずんば、縱令萬卷の書を讀むとも、雲煙過眼と何ぞ撰ばんとて、狩谷掖齋が「文字の關まだ越えやらぬ旅人は道の奥をばいかで知るべき」といふ詠、説文、歌を朗誦し、諄諄として予が爲めに學問の方針を指示せらる。予不敏なりと雖も、深く庭訓の旨を服膺し、爾來精を小學訓詁に専らにし、爾雅・説文に關する書は、殆ど涉獵せざるなく、以て經

學研鑽の資となし、兼て學徒に授くるに及びても、終始この庭訓を遵守し、頗る成績の見るべき者ありき。然るに教學の制度、改まりてより、學科多岐多端にして、學者力を漢文學に専らにすること能はず、讀書の力、年年に減退して、經學明かならず、人人貨利に汲汲として、禮義廉恥の四維漸く將に解弛せんとす。加之徒に西歐物質的文化に眩惑して、東洋精神的文明の精華たる漢字漢文を蔑視するの結果は、修辭の法を閑却して、文章日日に蕪穢に陥り、藝文漸く地を掃はんとす。予深く之を慨き、曩に故事成語大辭典を著し、以て作文修辭の一助となせり。爾時おもへらく、天下の讀書子をして徧く字義訓詁に通ぜしめんには、別に正確にして且つ解し易き字典の刊行なかるべからずと。乃ち自ら揣らず、其の編述に従事し、研精覃思、夙夜拮据、十數年の久しきに彌ると雖も、當時職を茗蠶に奉ぜしを以て、功程意の如く進まず、日暮れ道遠しの歎に堪へず、若し夫れ速成を期せんが爲めに、他人の援助を藉らんか、杜撰鹵莽の譏を招かんことを恐る。左思右想、憂心忡忡として、明

發まで寐ねられず。忽ち翻然として以爲へらく、公務の餘暇を以て、かかる至難の大事業を完成せんとするは、責任を重んずる者の爲すべき所にあらず、吁吾過てり、吁吾過てりと。乃ち大正三年春首、斷然公私一切の羈絆を脱却し、門を杜ぢ客を謝し、全幅の精力をこの書の屬稿と校正とに竭盡し、前後二十有餘年を経て、漸く茲に之を完成するを得たり。嗚呼先君子の墓木已に拱なり矣、就きて之を質すに由なし。幸に博雅の士の高批を得て、洗煉潤色の功を積まば、希くは徧く之を當世に流傳せしめて、以て東洋の文化を裨補し、且つ之を後昆に傳へて、長へに漢文學の研究に資することを得ん歟。

大正十二年三月

簡野道明識

凡例

本書は、古來經史子集に出でたる一切の漢字を網羅して、精確なる音義を施し、且其の文字を頭字とせる熟語・成句・書名・物名・人名・地名等を簡明に解釋して、五十音順に排纂したれば、漢字典にして故事成語辭典・地名辭典・人名辭典等を兼ねたるものなり。

本書に採收せし文字は、大抵康熙字典に準據したれども、古書に用例なき文字、又今日すでに廢字に屬せし文字は、之を刪去し、更に同字典以外の文字にして、日常使用せられつつあるものは、其の譌字・俗字たるを闕はず、すべて之を増補し、つとめて現代の實用に適せしめんことを期せり。但其の譌字・俗字には必ず其の條下に其の由を註記して、他の正字と混同することなからしめたり。

我國にて造りし文字にして廣く世間に通行せるものは、悉く之を採收して、其の條下に〔國字〕の二字を標記し、且其の意義を略解せり。

字畫の嚴正を期することは、字典の最大要件なれば、之が爲めに新に鑄造せし文字は無慮十數萬字の多きに及べり。

字音は、漢・吳兩音を並記し、其の兩音共通のものは、單に一音を掲げ、又從來慣用の音をば、通音として其の條下に標記し、且文字によりては、唐音・宋音をも併記せり。

一字數音に分るるものは、㊦㊧㊨㊩の符を付して、先づ其の文字の本義に屬する音を掲げ、次に引申して生ぜし轉義の音に及び、且毎音の下に其の所屬の韻を示せり。

韻字は、□にて囲み、其の四隅に圈發を施して以て四聲の別を明かにす、即ち平聲は□上聲は□去聲は□入聲は□の如くせり。

一字にして數義を有するものは、一一〇符を付して之を列舉す、音韻の異なるに従ひて訓義の異なるものも亦㊦㊧㊨㊩の符を付して、先づ其の本義を解き、次に轉義に及び、前に標出せし字音の㊦㊧㊨㊩と、互に對照して音義の關係を會得せしむ。

字解は、先づ其の字義を解き、次に其の文字を應用せし熟語の一斑を示し、次に其の出典に及び。例へば八〇九頁

【教】

カウ
ケウ 常に教に
作るは非

○をしへる(誨)知らざることを告げざとらす。又、其のをしへ「儒」「聖」「名」「明」管子、弟子職「先生施し」

とある如し。ここの一符は教字を代表せしなり。通篇之に準じて知るべし。

音義の互に通用せる文字、又、古字・正字等はH符を施して之を標出す、例へば一四四〇頁(尊)の字の解○ここに、發語の辭。H曰・越。○國の名。今の廣東・廣西は古の百一の地、故に此の二省を兩一とい

ひ、又廣東省の異稱を「省」といふ。魏徵詩「請_レ纒繫_二南_一」越。とある如し。

支那にて俗間の文書に通行せる訓義はすべて圓符を付し、佛典に出でたる訓義は圓符を付して解説し、又我國のみに通用せる訓義、例へば霞を「かすみ」嵐を「あらし」といふ類は、圓符の下に之を解説す。六書の一斑を知らしめん爲めに、其の最も解し易き文字には圓符の下に造字の意義を略説す。例へば一二二頁〔休〕の字の條

■ 休は木に从ひ人に从ふ、行人の休息するには、必ず木蔭_マに依るが故なり。

二二三二頁〔黛〕即ち「まゆすみ」の字の條

■ 黛は代なり、眉毛を去り、黒色の墨を畫きて之れに代ふるなり。故に代黒に从ふ。とある如し。

同訓異義の文字、例へば「看・見・視・觀・覽・瞻・瞰」「曰・言・謂・云・道」等の異同は■の條下に之を辨明す。

引用せし出典は、其の最も古くして且信憑すべき書中より抄出するを以て原則としたれども、古來人口に膾炙せる佳句・格言等は必ずしも時代の新古に拘泥せずして之を引用せり。

熟語の解説の條に於ける引用文詩中、其の熟語と同字なるものは「」の符を用ひ、三字以上の成句又は名詞等は稍長き單線即ち——符を用ひて之を代表せり。

〔熟語にして數義あり、一義にして數説あるものは、前に説きたる字解の例に倣ひ、○符を施して悉く

之を列舉せり。

其の熟語と同一若くは酷似の意義を有する類語は、符を付して其の條下に標出し、以て應用の才を長せしむ。例へば一七八三頁

【解悶】ハツ しんばいをはらす。悶は瀟。白居易詩、秋館清涼日、書因_ニ一_ニ看_レ一_ニ遺悶、排悶、散悶、釋

悶、消悶。とある如し。

扁勞冠脚の知れ難き文字を検出する爲めに、檢字索引を付せし外に、精密なる字音索引と、字訓索引とを添へたれば、容易に所要の文字を検索するを得べし。

文字にて十分に説明し難き禮器・樂器・冠服・兵器・雜器・動植等の圖を博古圖・金石萃編・西清古鑑・金石索・三才圖會等の書より抄出して之を彙纂し、卷末に附載したれば、本文中の解説と参照して其の制作を會得すべきなり。

著者の所藏に係る「隸法彙纂」「草字彙」の原刻本を寫真版に付し、別冊として添ふ、この二書は支那は勿論、我國にも翻刻せられて、多く坊間に存在せりと雖も、法帖に貴ぶところは原刻本に在り、而して原刻本の容易に求め得難きは、古來學者の同歎するところなり、この二書出でて説文研究者並に書苑に遊ぶ人士の參考たるを得ば幸なり。

本書稿を起してより茲に二十有餘年、其の間、引用せし書目の疎たれもの處左に掲ぐ。

正字通	字彙	字彙	六書	解雅	類編	佩文韻府	汗音	博雅	彙編	九經	經義	匡謬	于錄	龍龜	玉鑑	廣雅	釋名	說文解字	急就	方音	小雅	附雅	書名
三	四	五	五	七	七	三	四	七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
明孫自烈	明吳任臣	明梅膺祚	元李文仲	宋戴侗	宋朱謀	宋王洙	宋郭忠恕	宋郭忠恕	宋陸佃	宋賈昌朝	唐元稹	唐陸德明	唐顏師古	唐顏師古	遼僧行均	梁顧野王	魏張揖	後漢劉勰	漢許慎	漢史游	漢揚雄	漢孔鮒	撰者未詳
太平御覽	白孔六帖	初學記	北堂書鈔	藝文類聚	聲韻源流	聲韻源流	聲韻源流	四聲切韻	古今韻略	古今韻略	古音韻	唐音韻	洪武正韻	古今韻會舉要	五音集韻	韻略	韻略	韻略	韻略	韻略	韻略	韻略	韻略
1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
宋李昉	宋李昉	唐徐堅	唐虞世南	唐歐陽詢	清萬斯同	清戴大	清錢大	清江	清江	清邵長	清顧炎武	清顧炎武	清顧炎武	明洪武中	元熊忠	金韓道昭	宋吳縯	宋丁度	宋丁度	撰者未詳	唐釋慧琳	唐釋慧琳	清聖祖
皇清經解	四書全註	四書全註	五經全註	十三經注疏	經義述聞	經義述聞	經義述聞	格致錄	通雅	通雅	佩文韻府	古今圖書集成	子史精華	湖山堂	三才圖會	永樂大典	小學	小學	小學	事物紀原	事物紀原	事物紀原	事物紀原
1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
清阮元	宋朱	明胡	明胡	清阮元	清王引之	清王引之	清江	清阮元	清陳元龍	清翟	清聖祖	清聖祖	清聖祖	清聖祖	明彭大翼	明王圻	明永樂中	宋王應麟	宋王應麟	宋王應麟	宋王應麟	宋王應麟	宋王應麟

明史	明史	元史	金史	遼史	宋史	五代史	唐書	舊唐書	南史	周書	北齊書	魏書	陳書	梁書	南齊書	宋書	晉書	三國志	後漢書	漢書	史記	續通志		
三〇	三〇	三〇	二五	二六	四〇	七〇	二二〇	二二〇	一〇〇	六〇	五〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	
清王鴻緒	清張廷玉	明宋濂	元托克托	元托克托	元托克托	宋歐陽修	宋歐陽修	宋歐陽修	石晉劉昫	唐李延壽	唐李延壽	唐李延壽	唐李延壽	唐李延壽	唐李延壽	唐李延壽	唐李延壽	唐李延壽	唐李延壽	唐李延壽	唐李延壽	唐李延壽	唐李延壽	唐李延壽
吳越春秋	國朝先正事略	史名臣言行錄	尚友錄	萬姓統譜	聖門人物志	宋名臣言行錄	宋名臣言行錄	宋名臣言行錄	宋名臣言行錄	宋名臣言行錄	宋名臣言行錄	宋名臣言行錄	宋名臣言行錄	宋名臣言行錄	宋名臣言行錄	宋名臣言行錄	宋名臣言行錄	宋名臣言行錄	宋名臣言行錄	宋名臣言行錄	宋名臣言行錄	宋名臣言行錄	宋名臣言行錄	宋名臣言行錄
二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
後漢趙燧	清李元度	清汪輝祖	明徐開任	明廖用賢	明凌迪知	明郭子昂	宋朱子	宋朱子	宋朱子	宋朱子	宋朱子	宋朱子	宋朱子	宋朱子	宋朱子	宋朱子	宋朱子	宋朱子	宋朱子	宋朱子	宋朱子	宋朱子	宋朱子	宋朱子
莊子	莊子	莊子	莊子	莊子	莊子	莊子	莊子	莊子	莊子	莊子	莊子	莊子	莊子	莊子	莊子	莊子	莊子	莊子	莊子	莊子	莊子	莊子	莊子	莊子
八	八	一	二	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
周莊	周列	周尹	周老	清黃宗	清黃宗	明王守仁	明丘	明丘	明丘	明丘	明丘	明丘	明丘	明丘	明丘	明丘	明丘	明丘	明丘	明丘	明丘	明丘	明丘	明丘
周	周	周	周	周	周	周	周	周	周	周	周	周	周	周	周	周	周	周	周	周	周	周	周	周

張	章	劉	儲	岑	孟	顏	論	淮	呂	史	朝	七	李	黃	尉	司	吳	孫	六	韓	管	墨	抱
司	蘇	臨	光	嘉	浩	氏	氏	南	覽	冠	直	公	公	公	馬	馬	馬	非	非	非	非	非	朴
江	蘇	臨	光	嘉	浩	氏	氏	南	覽	冠	直	公	公	公	馬	馬	馬	非	非	非	非	非	朴
集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集
二	八	二	二	五	八	四	二	三	三	一	三	三	三	三	三	一	一	一	六	二	二	一	八
唐	唐	唐	唐	唐	唐	北	後	漢	漢	漢	明	唐	唐	周	周	周	周	周	周	周	周	周	晉
賈	張	韋	劉	儲	岑	齊	漢	漢	漢	漢	劉	李	李	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	高
島	等	應	長	光	浩	之	王	劉	劉	劉	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	洪
卒	四	奔	份	大	楊	雁	揭	楊	真	范	擊	和	浣	白	唐	韓	李	丁	吳	溫	姚	王	李
林	溪	州	居	全	鐵	門	曼	仲	山	石	南	病	花	蓮	英	內	羣	卯	川	飛	少	司	長
詩	山	人	詩	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集
一	三	六	二	六	三	六	一	三	八	三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
清	明	明	明	元	元	元	元	宋	宋	宋	宋	宋	唐	唐	唐	唐	唐	唐	唐	唐	唐	唐	唐
顯	樹	王	張	高	楊	隆	楊	武	范	范	陸	陸	章	羅	羅	羅	羅	羅	羅	羅	羅	羅	羅
炎	世	世	羽	維	維	拉	拉	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
武	真	真	羽	拉	拉	拉	拉	拉	拉	拉	拉	拉	拉	拉	拉	拉	拉	拉	拉	拉	拉	拉	拉
何	鮑	鮑	鮑	陸	陸	阮	阮	曹	曹	曹	曹	曹	曹	曹	曹	曹	曹	曹	曹	曹	曹	曹	曹
水	參	參	參	陸	陸	阮	阮	曹	曹	曹	曹	曹	曹	曹	曹	曹	曹	曹	曹	曹	曹	曹	曹
郎	軍	軍	軍	龍	龍	宗	宗	建	建	建	建	建	建	建	建	建	建	建	建	建	建	建	建
集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集	集
一	一	二	八	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
梁	齊	宋	晉	晉	晉	魏	魏	魏	漢	漢	清	清	清	明	明	宋	宋	唐	唐	唐	唐	唐	唐
何	謝	鮑	陶	陶	陶	阮	阮	阮	蔡	蔡	顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧	顧
遜	照	照	照	照	照	照	照	照	照	照	照	照	照	照	照	照	照	照	照	照	照	照	照

笠澤叢書	皮子文叢	李義山詩文集	白氏文集	劉賓客文集	元氏長慶集	韓文公集	柳河東集	孟東野集	顧魯公集	次仲文集	錢仲文集	王右丞詩集	杜工部集	高常侍集	李太白集	李北海集	曲江遺集	陳拾遺集	駱丞之集	盧昇之集	盈川集	王子安集	庾子山集	昭明太子集	
五	二	三	七	四	六	五	二	六	二	二	二	六	二	二	五	七	二	四	七	二	二	二	二	五	
唐陸龜蒙	唐皮日休	唐李商隱	唐白居易	唐劉禹錫	唐韓愈	唐柳宗元	唐孟郊	唐元稹	唐顏真卿	唐錢起	唐獨孤及	唐王維	唐杜甫	唐高適	唐李自	唐李九齡	唐張九齡	唐陳子昂	唐駱賓王	唐盧照鄰	唐楊炯	唐王勃	周庾信	梁蕭統	
元遺山全集	元文文山集	元疊川文集	元龍濟文集	元誠子文集	元象軒文集	元南宏集	元趙孟頫集	元唐子西集	元後山集	元梁城集	元山谷集	元東坡全集	元臨川類稿	元豐家集	元傅欽公集	元韓愈全集	元蘇老泉全集	元文忠公全集	元宋景文公集	元宛陵集	元范正公集	元蘇子美集	元南里集	元蘇子美集	
五	二	三	三	三	三	三	三	三	三	三	二	三	三	二	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
金元好問	宋文天祥	宋謝枋	宋陳亮	宋楊萬里	宋朱子	宋陸九淵	宋張栻	宋陳亮	宋楊時	宋唐道	宋陳師道	宋蘇軾	宋黃庭堅	宋蘇軾	宋王安石	宋曾光	宋司馬光	宋蘇洵	宋蘇軾	宋歐陽修	宋歐陽修	宋宋學士全集	宋宋學士全集	宋宋學士全集	宋宋學士全集
御定金瓶梅	明百家詩選	明今詩選	明古詩選	明唐詩選	明唐詩選	明唐詩選	明唐詩選	明唐詩選	明唐詩選	明唐詩選	明唐詩選	明唐詩選	明唐詩選	明唐詩選	明唐詩選	明唐詩選	明唐詩選	明唐詩選	明唐詩選	明唐詩選	明唐詩選	明唐詩選	明唐詩選	明唐詩選	
六三	五	七	二	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
清聖祖敕撰	明李攀龍	明李攀龍	明李攀龍	明李攀龍	明李攀龍	明李攀龍	明李攀龍	明李攀龍	明李攀龍	明李攀龍	明李攀龍	明李攀龍	明李攀龍	明李攀龍	明李攀龍	明李攀龍	明李攀龍	明李攀龍	明李攀龍	明李攀龍	明李攀龍	明李攀龍	明李攀龍	明李攀龍	

御定歴代賦彙	佩文韻府物詩選	二六三	清、聖祖敕撰	文、體、明、辨	五七	明、徐、師、贊	詞、里、註、誌	四一	明、陳、道、元
今唐詩選	古詩選	二六二	清、徐、上、福	彦、魏、六、朝、七、十、二、家、集	五五	明、張、鑾	水、鄒、註、誌	四〇	明、何、汝、成
唐詩	唐詩	二六〇	清、乾、隆、敕、撰	唐、六、書、治、儀、典	四五	唐、玄、宗、帝	古、今、遊、名、山、記	三九	明、何、學、倫
唐詩別裁集	唐詩別裁集	二五九	清、沈、德、潛	漢、官、書、治、儀、典	四四	後、漢、衛、宏	大、明、一、統、名、勝、志	三八	明、曹、學、倫
十八家詩鈔	十八家詩鈔	二五八	清、沈、德、潛	通、書、治、儀、典	四三	唐、魏、徵	大、唐、四、城、記	三七	唐、韓、玄、武
古文關雎	古文關雎	二五七	清、曾、國、藩	文、獻、通、考	四二	唐、杜、佑	天、下、郡、國、利、病、書	三六	唐、韓、玄、武
古文執紼	古文執紼	二五六	宋、呂、祖、謙	文、獻、通、考	四一	宋、馬、端、臨	廣、輿、方、輿、紀、要	三五	清、顧、炎、武
古文潤鑿	古文潤鑿	二五五	宋、劉、枋、得	皇、朝、文、獻、通、考	四〇	清、乾、隆、敕、撰	歷、代、地、理、志、韻、編	三四	清、李、光、洛
唐宋八家文	唐宋八家文	二五四	清、沈、德、潛	皇、朝、文、獻、通、考	三九	清、乾、隆、敕、撰	二、輔、黃、岡	三三	清、李、光、洛
古文韻類	古文韻類	二五三	清、沈、德、潛	皇、朝、文、獻、通、考	三八	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	三二	宋、歐、陽、修
朝語文鈔	朝語文鈔	二五二	清、沈、德、潛	皇、朝、文、獻、通、考	三一	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	三一	宋、歐、陽、修
文苑英華	文苑英華	二五一	清、沈、德、潛	皇、朝、文、獻、通、考	三〇	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	三〇	清、李、光、洛
唐文粹	唐文粹	二五〇	宋、陳、鵬、統	皇、朝、文、獻、通、考	二九	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	二九	清、李、光、洛
宋文粹	宋文粹	二四九	宋、趙、鼎、勳	皇、朝、文、獻、通、考	二八	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	二八	清、李、光、洛
文苑英華	文苑英華	二四八	宋、趙、鼎、勳	皇、朝、文、獻、通、考	二七	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	二七	清、李、光、洛
唐文粹	唐文粹	二四七	宋、趙、鼎、勳	皇、朝、文、獻、通、考	二六	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	二六	清、李、光、洛
宋文粹	宋文粹	二四六	宋、趙、鼎、勳	皇、朝、文、獻、通、考	二五	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	二五	清、李、光、洛
宋文粹	宋文粹	二四五	宋、趙、鼎、勳	皇、朝、文、獻、通、考	二四	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	二四	清、李、光、洛
宋文粹	宋文粹	二四四	宋、趙、鼎、勳	皇、朝、文、獻、通、考	二三	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	二三	清、李、光、洛
宋文粹	宋文粹	二四三	宋、趙、鼎、勳	皇、朝、文、獻、通、考	二二	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	二二	清、李、光、洛
宋文粹	宋文粹	二四二	宋、趙、鼎、勳	皇、朝、文、獻、通、考	二一	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	二一	清、李、光、洛
宋文粹	宋文粹	二四一	宋、趙、鼎、勳	皇、朝、文、獻、通、考	二〇	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	二〇	清、李、光、洛
宋文粹	宋文粹	二四〇	宋、趙、鼎、勳	皇、朝、文、獻、通、考	一九	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	一九	清、李、光、洛
宋文粹	宋文粹	二三九	宋、趙、鼎、勳	皇、朝、文、獻、通、考	一八	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	一八	清、李、光、洛
宋文粹	宋文粹	二三八	宋、趙、鼎、勳	皇、朝、文、獻、通、考	一七	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	一七	清、李、光、洛
宋文粹	宋文粹	二三七	宋、趙、鼎、勳	皇、朝、文、獻、通、考	一六	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	一六	清、李、光、洛
宋文粹	宋文粹	二三六	宋、趙、鼎、勳	皇、朝、文、獻、通、考	一五	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	一五	清、李、光、洛
宋文粹	宋文粹	二三五	宋、趙、鼎、勳	皇、朝、文、獻、通、考	一四	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	一四	清、李、光、洛
宋文粹	宋文粹	二三四	宋、趙、鼎、勳	皇、朝、文、獻、通、考	一三	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	一三	清、李、光、洛
宋文粹	宋文粹	二三三	宋、趙、鼎、勳	皇、朝、文、獻、通、考	一二	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	一二	清、李、光、洛
宋文粹	宋文粹	二三二	宋、趙、鼎、勳	皇、朝、文、獻、通、考	一一	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	一一	清、李、光、洛
宋文粹	宋文粹	二三一	宋、趙、鼎、勳	皇、朝、文、獻、通、考	一〇	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	一〇	清、李、光、洛
宋文粹	宋文粹	二三〇	宋、趙、鼎、勳	皇、朝、文、獻、通、考	九	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	九	清、李、光、洛
宋文粹	宋文粹	二二九	宋、趙、鼎、勳	皇、朝、文、獻、通、考	八	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	八	清、李、光、洛
宋文粹	宋文粹	二二八	宋、趙、鼎、勳	皇、朝、文、獻、通、考	七	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	七	清、李、光、洛
宋文粹	宋文粹	二二七	宋、趙、鼎、勳	皇、朝、文、獻、通、考	六	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	六	清、李、光、洛
宋文粹	宋文粹	二二六	宋、趙、鼎、勳	皇、朝、文、獻、通、考	五	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	五	清、李、光、洛
宋文粹	宋文粹	二二五	宋、趙、鼎、勳	皇、朝、文、獻、通、考	四	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	四	清、李、光、洛
宋文粹	宋文粹	二二四	宋、趙、鼎、勳	皇、朝、文、獻、通、考	三	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	三	清、李、光、洛
宋文粹	宋文粹	二二三	宋、趙、鼎、勳	皇、朝、文、獻、通、考	二	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	二	清、李、光、洛
宋文粹	宋文粹	二二二	宋、趙、鼎、勳	皇、朝、文、獻、通、考	一	清、乾、隆、敕、撰	皇、朝、文、獻、通、考	一	清、李、光、洛

本書中に引用せし書目は、成るべく頁数を節約して内容を豊富にせんが爲めに、多くは簡稱を用ひたり。

例へば

書は書經、詩は詩經、禮は禮記、論は論語、孟は孟子、史は史記、左は春秋左氏傳、荀は荀子、列は列子の略なるの類なり。されば論、學而とあるは、論語の學而篇、孟、離婁とあるは、孟子の離婁篇、左、閔二は、春秋左氏傳の閔公二年の條、史、平準書は、史記の平準書、荀、勸學は、荀子の勸學篇の義なり。餘は類推して知るべし。

本書の刊行につきて、書肆北辰館主人夫妻が、或は鉅萬の貲を捐てて排印の事に任じ、或は數年の久しきに涉りて校字の勞に服し、終始一貫以て本書の完成を授けし功績は、著者の深く感銘する所なり。

檢字

◎部首從屬の知れ難き文字(友・也・美など)を、總畫にて檢出する便に供す。
 ◎同畫中の文字は部首の文字を初に出し、次に部首從屬の順に排列せり。
 ◎聲教を誤算する虞ある文字(臣・表・與など)は、特に前後兩方に重出せり。

一畫

一 一 乙 乙

二畫

二 人 儿 入

八 冫 冫 冫

冫 冫 冫 冫

匕 匕 匕 匕

冫 冫 冫 冫

丁 丁 丁 丁

丁 了 了 了

三畫

口 口 口 口

夕 夕 夕 夕

子 子 子 子

尸 尸 尸 尸

己 己 己 己

及 及 及 及

互 互 互 互

三 三 三 三

丸 丸 丸 丸

也 也 也 也

凶 凶 凶 凶

勻 勻 勻 勻

子 子 子 子

小 小 小 小

冫 冫 冫 冫

心 心 心 心

支 支 支 支

方 方 方 方

木 木 木 木

受 受 受 受

氏 氏 氏 氏

爪 爪 爪 爪

牙 牙 牙 牙

不 不 不 不

中 中 中 中

予 予 予 予

亢 亢 亢 亢

冫 冫 冫 冫

仍 仍 仍 仍

公 公 公 公

九 九 九 九

切 切 切 切

旬 旬 旬 旬

卅 卅 卅 卅

卮 卮 卮 卮

双 双 双 双

天 天 天 天

孔 孔 孔 孔

虫 虫 虫 虫

市 市 市 市

吊 吊 吊 吊

四畫

冫 冫 冫 冫

吊 吊 吊 吊

五 畫

玄 玉 玉 瓜 瓦 三
 廿 生 用 田 疋 三
 疒 天 白 皮 疝 三
 目 矛 矢 石 示 三
 肉 禾 穴 立 夕 三
 四 禾 且 不 世 三
 世 丘 丙 卯 主 三
 井 乍 乎 乏 仔 三
 仕 仞 仙 仟 仗 三
 付 令 全 以 兄 三
 充 全 余 回 冊 三
 册 冉 冬 夂 夂 三
 凹 困 出 凸 刊 三
 刊 加 功 匄 匄 三
 勿 包 北 匱 匱 三

卉 半 一 世 占 卬 九
 厄 卯 去 公 右 七
 可 号 句 另 叶 九
 叶 古 叩 司 史 九
 只 叱 台 叨 叮 九
 召 叵 叭 叭 回 九
 四 囚 回 外 央 九
 失 李 奴 孕 宄 九
 宄 它 宁 尔 余 九
 尻 尼 巧 巨 幼 九
 目 市 布 平 幼 九
 庀 弁 式 弘 弗 九
 必 忉 戊 戊 危 九
 打 扒 扑 扑 扒 九
 斥 巨 札 朮 末 九
 未 木 正 歹 母 九

氏 民 永 冰 汁 九
 友 犯 由 甲 申 九
 迂 防 九

六 畫

竹 米 系 缶 网 九
 羊 羽 老 而 耒 九
 耳 聿 肉 臣 自 九
 至 白 舌 舛 舟 九
 艮 色 艸 声 虫 九
 血 行 衣 两 承 九
 兩 亘 互 交 亥 九
 亦 伊 价 伉 伎 九
 企 休 仰 件 伍 九
 他 任 伐 仇 伏 九
 充 兕 光 先 瓮 九
 兆 全 共 高 再 九

决 五 冰 夙 夙 八
 刑 刑 刑 刑 八
 列 荔 劣 匄 匄 八
 匡 杏 冊 冊 卮 八
 印 危 各 合 吉 八
 吃 向 吁 后 吒 八
 吊 吐 时 同 名 八
 吏 因 回 回 回 八
 圮 圭 在 地 圮 八
 峯 夙 多 夷 夸 八
 好 奸 如 妄 字 八
 存 安 一 字 守 宅 八
 寺 尖 尽 弟 州 八
 帆 年 井 庄 异 八
 式 式 弛 徇 忤 八
 戌 戌 戎 扛 扞 八

扣抗扒杈收

攷旭早旨旬

曳曲史有机

朽束朱朵菜

次此二死八求

汗江汗汝灰

充灯奔牝牟狂

叮用百礼空

乍考肌肋骨

艾艾芘芘西边

込辻邛邛陲

阡

七

臣見角言谷

豆豕豕豕豕赤

走足足身車辛

辰瓮邑酉采

里长麦串乱

况些亨位余

克兑兔免兵

自刳刚初判

别利劬劫助

劬努罔况泮

治冷匣医淋

肖却邵即卵

底叫呀吭告

含吸听呈君

后映吾吴吴

吹呈吞吠呆

否吝吕呖困

囫囵园囫困

函坎圻坐址

些全壮声峯

爽妖妓妨孝

孜妝妥字字

突宏宐完宋

突龙冠庭局

尿屁尾岌岑

昂岔巡巫扈

希昏度床序

庇延廷弃弄

弟形彤役俗

彷彿忌志忍

付忘忻悴我

戒成一抛於

找抓承折投

收改攸改季

攻季旱盱盱

更朽杠杏束

村杖杖林杜

棠杓季季歇

步毒每求汨

沂汽汨沐灸

災灾灵物牡

牢折狂神狄

玕舛舛甫甬

町甸疔疔疤

皂皂兒矣疔

秀秃秃究紉

罕羊羊彤肛

育肖肖肘肚

虬芋芋甘芍

芍芋芋甘芍

池速速迄迅